

事業企画戦略室会議 (平成 28 年度第 5回)

議事録

2016 年 1 月 15 日 (金) 開催

時 間	15:00～17:00		場 所	地盤工学会 3 階中会議室		
大 林 淳 室 長	○	保 高 徹 生 幹 事	○	高 梨 俊 行 室 員	×	
小 林 孝 彰 室 員	×	並 河 努 室 員	×	南 部 い づ み 室 員	○	
堀 雅 明 室 員	○	渡 邊 康 司 室 員	○	渡 邊 保 貴 室 員	×	
小 川 和 也 室 員	×	坂 梨 利 男 室 員	○			
事務局：松本雅樹	×	事務局：伊佐治敬	○			

○：出席 ×：欠席

【議 題】

議事録担当者の選出 → 堀 室員

1. 前回議事録の確認 (南部室員)

【別紙-1】

承認された。

2. 理事会報告

【別紙-2】

- ・「地盤工学シンポジウムの再開」、地盤環境シンポジウムと交互に隔年開催を基本
研究委員会主催シンポジウムとの共同開催を検討中
- ・NIED 研究業務「都市の堆積平野部の三次元地盤モデル構築とモデル構築手法の適正評価」落札
- ・「グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説」英語訳承認
- ・電子化の総括的検討 WG の発足、承認
- ・第一次予算 (3,000 万円超の赤字)、第二次予算検討の基本方針が示された
- ・講習会などの学会行事の一時期集中を避けるための分散開催についての検討要請
- ・平成 28 年度会長、副会長一次候補者 (案)
- ・「福島原子力発電所廃止措置に向けた地盤工学的新技術と人材育成に関する検討委員会」の調査・
研究部内への設立、承認
- ・「杭基礎構築の実態に関する特別委員会」の設置、承認
- ・「地盤工学会誌の電子化について」、「学会の電子化の総括的検討 WG」の中で検討が進められる
- ・「電子図書室検索システムの不具合および改修」上記 WG にて検討を行う
- ・日本学術会議と防災減災・災害復興に関連する学会の連携推進のための「防災学術連携体」への
参画について
派遣委員 2 名 (大林室長+高橋会員 (東京工業大学))
- ・「学会活動の活性化に関する活動報告シート」シートの内容について事業企画戦略室で検討し、電
子化に関する WG を立ち上げた。今後も活性化に向けた活動を継続。
- ・「第 15 回アジア地域会議開催報告」参加者が多く大成功
- ・「2015 年関東・東北豪雨災害 土木学会・地盤工学会合同調査団速報会の開催」
- ・「地盤工学発表会」7 月 12 日～14 日名古屋開催

3. 活動報告シート:事業企画戦略室の担当項目の確認

【別紙-3】

- 1 委員会レビュー 小林
委員会レビューの項目の活用のフィードバック
改善点の吸い上げの実施を必要に応じ検討 (活用されていれば問題なし)
- 7 会員の積極的勧誘 渡邊(康)、渡邊(保)
- 8 会員になりたくなるメリット 渡邊(康)、渡邊(保)
会員支部部に現状記入をお願いする
- 9 広告収入のあり方 大林、高梨
進展なし
- 10 他学会・広域分野への展開 大林、小川

- 連携を模索していく（防災学術連携体）
- 17 電子化全体を総括検討 ・ ・ ・ ・ ・ 並河、保高、坂梨
本日（1/15）の内容を反映
- 25 教員向け技術講習会への参画 ・ ・ ・ 堀、南部
12～3月に申請する必要がある模様。申請書類に関して調査していく。

4. 電子化WGについて

【別紙-4】【別紙-4_0】

- ・ 理事会報告内容関連
 - ITについては総務部広報が入る
 - 電子図書館について、PDF形式依存で（将来も）大丈夫なのか、電子化にあたっての著作権、広告の価値、基準部の書籍の扱い、サーバーをもつのではなくクラウドを利用すればいいのではといった意見が出されており、事業企画戦略室の役割をはっきりとさせて進めていく。
- ・ WGメンバー（別紙-4_0）
- ・ 公益出版部へ基本計画、スケジュール、削減経費を確認（別紙-4）
- ・ 電子版利用の特典案（別紙-4_0）
- ・ 電子版の格納先（電子図書館とJ-stage Lightが候補）
- ・ 基準部にて電子図書館の改修を検討（システム（なまず）の改修、他部との共用で効率化との意見あり）
- ・ 電子図書館は書籍のバックアップの意味合いもある（図書室図書で長期貸し出しとなるケースもあるため）
- ・ 電子図書館は学会として再構築等が前提となるが必要であろう（紙の学会誌が必要ならば2千円支払うようなイメージとして会員を募るといった考えもある）
- ・ 学会誌の電子化について
 - J-stage Rightは自分で電子化してupすることになり広告はカットされる。
 - 広告を残そうとすると電子図書館しかない。広告収入（660万）
 - J-stageでは各論文が置かれる形となる。冊子としてのとりあつかいではない。
- ・ 過去の学会誌の電子化は、60周年記念DVDでされている。
- ・ 電子図書館のあり方など各部の意見もあると思われるため、WGでメール審議をすすめる。

5. 中長期計画の準備

- ・ 誰に向けたビジョンなのかを明確でない面がある
- ・ 社会に向けた発進であれば、内部の事情を細かく出す必要はないように思える
- ・ 組織変更のスパンと中長期計画の見直しのスパンがあわない状況となるので、継続できる理念的なものを示すことも考える
- ・ 5月を目途にというように期限をきって、ビジョンの出し方を検討する。
- ・ 活動報告シートを複数回集約することで、中長期ビジョンの評価を埋められることも考えられる（大林室長に整理いただく）。
- ・ 中長期の課題に加えるものがないか各室員で持ち帰り検討する。（原発廃炉といった社会背景の変化や社会貢献といった観点が考えられる）

6. 理事会報告内容（3月15日）

- ・ 電子化WGの検討結果
- ・ 中長期ビジョンの見直しに向けた検討

7. その他

- 1) 第4回事業企画戦略室会議の開催日確認：平成28年3月4日（金）10:00～12:00
 - ・ 電子化WG
 - ・ 中長期ビジョンの検討に対する課題